

2019年度 まことこども園 自己評価公表シート

1・園の教育保育目標

「優しい思いやりのある子」

「明るい元気な子」

「何事にもがんばる子」

を教育保育目標とし、乳幼児期にふさわしい環境の下で、友達や保育者と楽しく充実した生活を営み、そして人間として生きる力の基礎となる、豊かな心、意欲、態度を育てること、すなわち『こころの育ち』を支えることを本園の目標としています。

2・2019年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに、設定した園評価の具体的な目標や計画

保育棟

安全で活動しやすい環境を構築し、生活や遊びの中で十分に身体を動かす事を楽しむ。自分の感情をコントロール出来る様、自我の芽生え等を見落とさず、育んでいく。

幼児棟

友達関係を構築していく中で、思いやりや葛藤など心の成長に気付き、寄り添い促していく。丈夫な身体をつくる為、戸外で思い切り遊べる保育を進んで取り入れ実行する。

職員

個々の発達や、成長の段階を見極め、一人一人にあった保育を考え展開していく。研修にも参加し、学んだ事を園に還元出来る様努める。

3・評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
愛着形成を基本とし、子供たちが安心して毎日登園出来るよう、一人一人の状況をよく把握する。	B	子ども達一人一人をよく理解し、信頼関係を築くことが出来た。しかし、一方では子どもの変化を見落とし、不安にさせてしまった件も発生した。この例を反省し、職員で共有した。今後の保育に活かしていく。
食事や運動を基本とし、日々の保育の中で友達や保育者との関りを楽しむ。子どもたちの意欲を引き出し、音楽・造形・英語など何事も楽しむ。	A	今年度も戸外で思い切り遊ぶ姿が多く見られた。保育者も率先して外での遊びを考え、取り入れながら子どもたちの身体の成長を促すことが出来た。また、講師の先生達とも密に連携を取る事で、子どもたちの興味や意欲も向上させることが出来た。
職員の資質向上の為に、研修等に参加し、乳幼児理解に努める。	A	今年度も色々な分野の研修に積極的に参加し、乳幼児教育保育の理解を深め、園に還元してくれた。

怪我、事故、災害時には職員全員が行動できるよう、安全に関する項目の共通理解を図る。また、園内環境整備にも目を配る。	A	様々なパターンで避難・火災・防犯訓練を行う事で、自分たちがどのような動きを取ればいいのかを全員で共有することができた。園内の環境整備も定期的に補修改修を行ったことで、安全に過ごすことが出来た。
保護者との信頼関係の構築に努める。	A	幼児教育無償化にあたり、給食費の改定や、新2号制度の導入など、新しい制度が始まった。制度の説明や、申請方法などについて、出来るだけ丁寧に説明する事ができた。

4・園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ こども園に移行して2年目は、幼児教育無償化という大きな変換時期だった。それに伴い、預かり保育の利用者が増加し、平日はもちろん、長期休業中における職員の配置数が大きく増えた。職員で協力をして保育に当たったが、来年度以降も利用者が増える事が考えられる為、預かり保育の人員を再度検討する事が必要である。 ・ 今年度も職員は研修に積極的に参加した。防災や、食育、保護者支援など、各個人が保育のスキルだけではなく、園に必要な様々な知識を深く得ることで、園で起こる色々な出来事に気付き、対応出来るようになってきている。全ての学年・クラスで、指導案から保育、評価・反省まで概ね計画通り進めることが出来たと感じている。 ・ 園内の保育環境（園舎内や屋根・遊具）の整備も進み、子ども達が更に安全・安心をして過ごせるようになった。

5・今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
幼児棟と保育棟の職員連携	幼児棟の行事に保育棟も積極的に参加し、交流を少しずつ深めることが出来た。保育棟の2歳児・幼児棟の満3歳児は同じ学年になるので、職員同士でも保育内容の情報共有を進めていきたい。
地域や関係機関との交流や連携	オドレ・なおぎねの様な地域の行事等にも積極的に参加していきたい。 消防署との連携（AED使用講習等）
小学校との連携	小学校へよりスムーズに進学出来るよう、交流を図る。 小学校の先生にも子どもたちの園での様子を見て頂き、理解してもらえよう進めていきたい。また、小学生と園児が接する時間を、引き続き設けていく。

◎「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが成果が十分でない
D	取組が不十分である